

環境調査結果のお知らせ

概況

本日、環境調査を行いましたので結果を送付いたします。

検鏡の結果、赤潮原因プランクトン及び貝毒原因プランクトンは確認されませんでした。

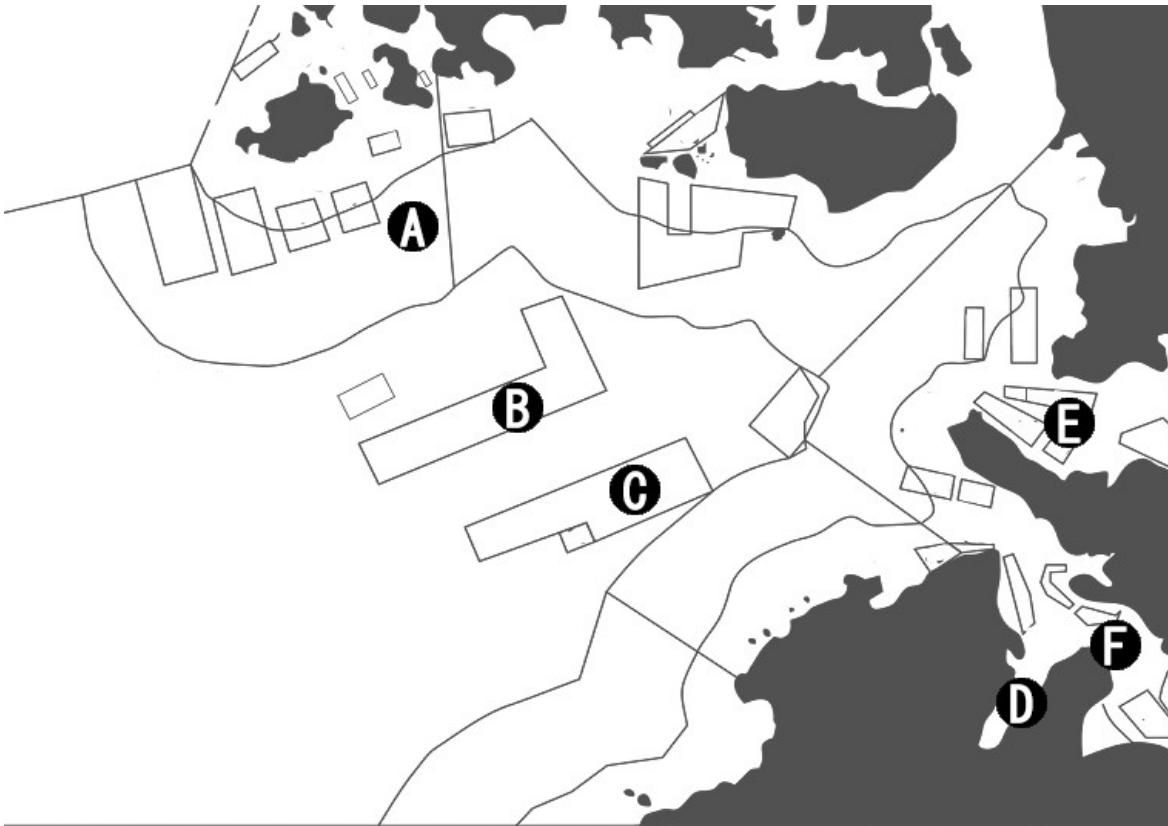
今後、飼育魚や海色等に異常が確認された場合は、海水をペットボトル等で採集し、漁協もしくは宿毛漁業指導所にご連絡下さい。

調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	コクロディニウム・ ポリクリコイデス
A 藻津 (-/35.3m) 【09:00】	0	25.3	33.7	5.5	0
	★ 5	25.4	33.7	5.5	0
	10	25.4	33.8	5.3	0
	15	25.4	33.8	5.1	-
	20	25.4	33.8	5.1	-
B 大島中央 (-/30.1m) 【09:08】	0	25.3	33.8	5.6	0
	★ 5	25.5	33.8	5.6	0
	10	25.6	33.9	5.3	0
	15	25.6	33.9	5.2	-
	20	25.6	33.9	5.1	-
C 小筑紫中央 (-/48m) 【09:16】	★ 0	25.3	33.7	5.4	0
	5	25.6	33.9	5.2	0
	10	25.6	33.9	5.2	0
	15	25.6	33.9	5.0	-
	20	25.6	33.9	4.9	-
D 栄喜奥 (-/13.3m) 【09:33】	0	24.5	28.4	6.9	0
	★ 2	26.0	33.9	6.3	0
	5	25.8	34.0	5.5	0
	10	25.8	34.0	5.4	0
E ヒロウラ (-/24.6m) 【09:53】	0	23.7	21.8	6.2	0
	★ 5	25.7	34.0	5.2	0
	10	25.7	33.9	5.2	0
	15	25.7	34.0	5.2	-
	20	25.7	34.0	5.1	-
F 青瀬山 (-/16.2m) 【09:40】	0	25.5	30.0	5.4	0
	★ 2	26.1	33.9	5.8	0
	5	25.8	34.0	5.4	0
	10	25.8	34.0	5.4	0
	15	25.7	34.0	5.4	-

クロロフィル量が極大の深度および、0m、5m、10mの深度から採水した海水の検鏡を実施しています。

★：採水したサンプルの内クロロフィルが極大であったもの

こちらの「環境調査」は、高知マリンイノベーション情報発信システム「NABRAS」(URL：<https://kmi-nabras.pref.kochi.lg.jp>)においてもご覧いただけます。



- A: 藻津 D: 栄喜奥
 B: 大島中央 E: ヒロウラ
 C: 小筑紫中央 F: 青瀬山

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5～8月	6～8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6～8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2～4月	5～6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3～12月	4～8月	4～11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6～7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8～9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8～11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1～4月	3～5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2～7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死 並びに 二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。